

公益社団法人 砂防学会東北支部

平成 28 年台風 10 号災害における土砂災害緊急調査（速報）

砂防学会東北支部では平成 28 年台風 10 号災害により岩手県内で発生した土砂流出に対し、「土砂災害緊急調査C委員会」を設置し、現地調査を行いました。

本報告は速報として公開するもので、今後調査結果をまとめ、東北支部のホームページ等にて報告します。

日 時：2016 年 9 月 8 日（木）～9 月 10 日（土）

調査箇所：岩手県岩泉町小本川流域、宮古市閉伊川流域

事前打合：9 月 7 日 岩手大学農学部 3 番教室

調査団：9 月 9 日 16 名、9 月 10 日 17 名

委員長 井良沢道也：岩手大学農学部森林科学科 教授

調査員 檜垣大助、小岩直人、高橋未央

：弘前大学

岡本 隆

：森林総合研究所東北支所

笠原亮一

：日本工営（株）

中島達也、新井瑞穂、落合達也

：アジア航測（株）

齋藤彰朗、佐藤聡、広瀬伸二、講武学、佐藤道也、大坪俊介、真壁さくら

：国土防災技術技術（株）

原 達樹、和田直輝、芳賀芽久美

：（株）北日本朝日航洋

安野雅満、多田信之

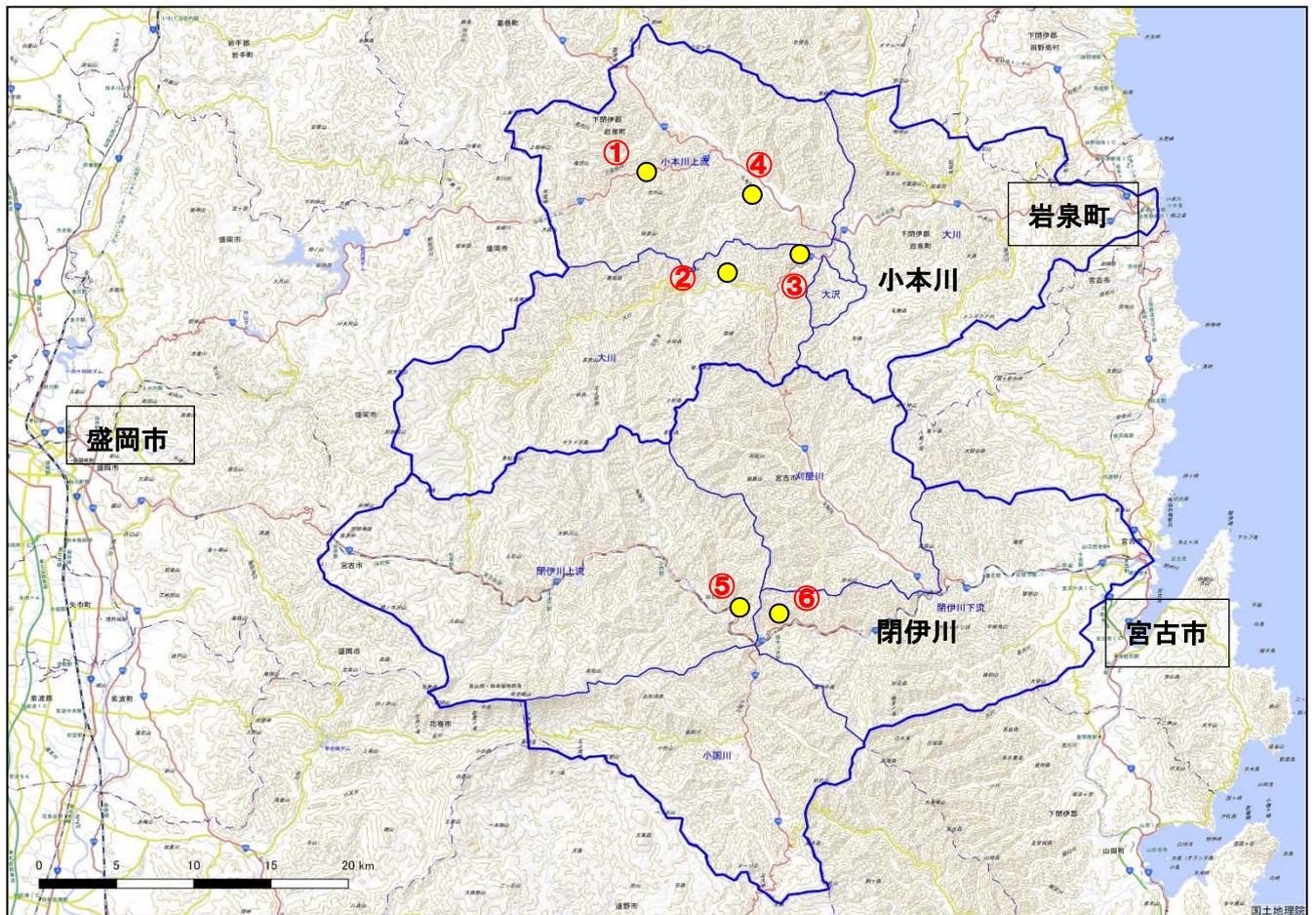
：（株）タックエンジニアリング

坂田 貴範

：岩手大学



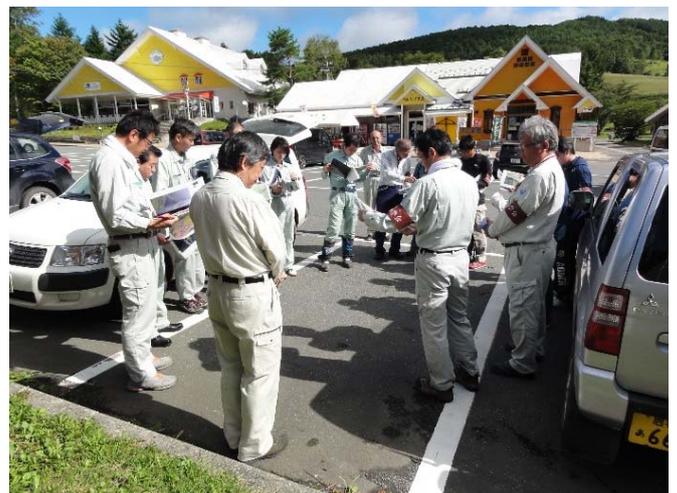
事前打合せ（9 月 7 日 岩手大学農学部 3 番教室）



調査位置 (①～④ : 9/9 ⑤～⑥ : 9/10 実施)



現場ミーティング (9月9日 岩泉町)



現場ミーティング (9月10日 宮古市)

被災状況

①岩泉町門地区



写真1 侵食により傾斜した倉庫（谷出口付近）



写真2 砂堆積状況（谷出口上流側）

堆積土砂はφ1cm以下の砂岩及び泥岩の細粒土砂が主体。最大礫径30cm程度。



溪流内の状況（中流域）

②岩泉町大川地区



写真3 道路に氾濫した土砂



写真4 家屋への土砂氾濫状況



写真5 県道から約70m（侵食が顕著）

②-2 岩泉町大川地区対岸の崩壊地



写真6 崩壊規模 L=60m, B=20, 崩壊深 1m, 傾斜 $\approx 40^\circ$



写真7 崩壊地下の保全対象人家

崩壊土砂は、崩壊地下の民家を直撃したが、崩壊地下端か人家までに幅 20m 程度の平坦地があった事から、崩壊土砂の衝撃力は減衰し、家屋に大きな損傷は無かった。

③岩泉町浅内 下川代地区



写真8 取水施設下流の状況 著しく侵食された溪岸・斜面(左岸側)



写真9 土石流が流れ込んだ作業小屋

④岩泉町褒綿（ほろわた）田畑地区における土砂流出



写真10 褒綿（ほろわた）田畑地区の沢における土砂流出状況



写真11 土砂埋積後の再侵食によって樹幹の一部が露出したスギ。
樹幹に大きな損壊がないことから衝撃力の強い土石流は発生していないと考えられる。

⑤宮古市川井 片巣地区



写真12 流出土砂で埋塞した川（堆積土は応急工事で一部除去している）



写真13 土砂流が流れ込んだ家屋



写真14 土石流が流れ込んだ家屋



写真15 堆積土砂